

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	阿倍野区地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 5 月 21 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	チャレンジ！「誰にでも優しいまちづくり」（支えられる人も支える人も）PART4	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①適切な時期に地域包括支援センター（以下「包括」という）への相談が上がってこない。 ②介護予防対象の高齢者自身に今後の在り方のビジョンがない。 ③つながりのない高齢者が身近に集いやすい居場所が不足している。	
対象	地域住民（支えられる人・支える人）、支援関係機関など	
地域特性	【長池地域】区の南東に位置し、昔ながらの民家が多いが、駅周辺や地域南部には単身者用のマンションも多い。駅周辺は栄えており大型スーパーもいくつかあるが、その間の地域にはスーパーなどは少ない。東西の交通の便が悪く、町会加入率は低い。単身者用のマンションも増えてきているので、地域とのつながりを持たない人も増えてきている。 【晴明丘地域】区の南西に位置し、戸建ての家が多く、独居高齢者が多い。坂が多くあり、交通弱者が多い地域。地域の南部は坂が多く、高齢者には移動が難しい。スーパーなども少なく買い物に不便である。地域活動の担い手が不足していたり、若い世代が多いが近所付き合いが少ない。地域活動は活発ではあるが、周知が十分できていない。 【阪南地域】区の南部中央に位置している。昔ながらの民家とマンションが混在している。高齢者の独居世帯も多い。空き家も多くなりゴミ屋敷も多い。小学校や公園が少ない。長屋が多い地域であり、最近マンションが増えた。また、大型マンションが2か所ある。地域活動者について、複数の活動を同じ人が担っていることが多く、人材不足。役所までの交通が不便である。	
活動目標	①個々の事例対応、地域ケア会議、積極的な研修参加により専門職の相談援助技術の向上を目指す。 ②高齢者の相談窓口としての包括、総合相談窓口（以下「ランチ」という）の更なる周知を目指す。 ③地域住民に対して精神疾患、8050問題、認知症についての啓発を行う。 ④生活支援体制整備事業と連携し、地域住民の新たなつながりや集いの場を1か所でも多く立ち上げる。	
活動内容 (具体的取組み)	①高齢の母親と精神疾患のある娘の共依存のケース、老老介護の状況で介護者の夫から暴力がある妻のケースなどの地域ケア会議を実施した。また、日々の総合相談の中で、困難ケースには3職種で対応、ミーティングでのケース共有、個別の研修参加等を通じて専門職の技術向上につなげている。 ②昨年度作成した地域情報掲載冊子の振り返りのアンケートを圏域内住民600名に対して実施し、情報誌の配布方法や内容についての振り返りを行った。また公式LINEで、包括や地域イベントの情報提供を年間24回行った。 ③地域住民に対して認知症啓発に向けての講演会の企画、開催、地域での「こころの健康」について健康講座の開催、8050問題については、小地域ケア会議で住民代表の方と共有し、共に解決策を話し合った。 ④生活支援体制整備事業や昭和ランチ・いくとくⅡと協力・連携し、「オレンジカフェいくとくⅡ」の立ち上げを行った。また、休止していた長池地域ふれあい喫茶や地域の銭湯で定期的な健康相談会を再開した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①適宜外部よりの専門職を招聘し、アドバイスを頂くことで、新たな視点を持つことができ、各々の専門職のスキルアップにつなげることができている。 ②昨年度LINE登録者数の増加もあり、また一方的な情報配信だけでなく振り返りを行うことで住民からの「必要な情報」が何かのニーズを掴むことができ、アンケート配布を通じての包括、ランチの周知の機会ともなった。 ③認知症講演会では、人体模型を実際に手に取り、体の仕組みから学ぶ内容の講座とした。このことで参加住民の関心も高まり、身体、脳、認知症、健康について意識を向けることができた。	
今後の課題	・早期の段階で包括へ相談が上がって来ず、すでに深刻な段階にある事例が見受けられる。包括の効果的な周知について検討するとともに、様々な機会を捉えて相談窓口としての周知活動も引き続き行っていく。 ・介護予防対象の高齢者に将来像のイメージが無い方が多い。在宅医療・介護連携支援コーディネーター等とも協力しながら、ACPの周知、健やかに年を重ねていくための知識を提供する健康講座の開催などを行っていく。 ・つながりのない高齢者が身近に集いやすい居場所が不足している。生活支援体制整備事業や地域と連携し、既存の居場所の活性化を図ったり、新たな交流の場となるものの開拓を進めていく。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月31日（水）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	地域共生社会推進検討会議で示された対人支援において今後求められるアプローチとは、具体的な課題解決を目指す解決型支援と、つながり続けることを目指した人とのつながりによる伴走型支援の両輪で、高齢者を支援するということである。阿倍野区包括の活動は、小地域ケア会議などを通して、隣人として共に生きてきた地域のケアメンバーが包括やランチにつながり、専門性を活かして高齢者に対応するという流れが明確に見えるものだ。認知症カフェの立ち上げ支援など地域に合わせたつながり方を継続的に模索しているため「地域性」「継続性」に該当し、支援の輪を広げ、外部講師の助言も得て多機関連携で対応しようとしているところから「専門性」に該当する。人体模型を用いるなど工夫した健康講座を通して住民の認知症への関心を高めるとりくみは「浸透性・拡張性」に該当する。また、あべのすこやかガイドの作成をアンケートの実施は独自のとりくみであるため「独自性」に該当する。	

* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。